

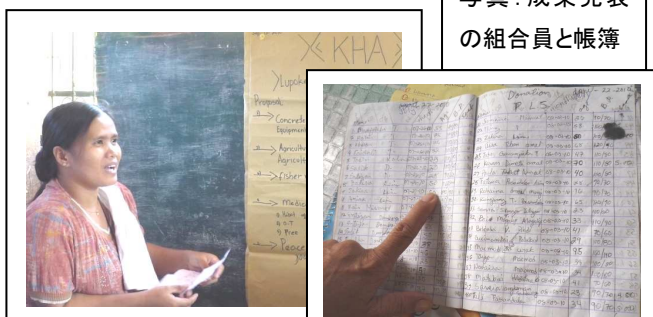
## いのちと森を守る活動

ティナガカンとバロンギスの成功で活気づく  
モロの村の健康推進事業

ナプサさんのグループ PIHS と協力して試行錯誤の中で推進してきた「村の健康は住民みんなを守る」事業は今年 10 年目を迎えます。昨年度は、生活苦による保健ボランティアの離村対策としてヘルス組合員の収入向上と財源創出の事業を加えました。以下報告の 2 村の成果は周辺村落のよい刺激になっています。(関連記事 P4)

**<ヤシの葉屋根材の共同出荷・ティナガカン村>**  
共同出荷に切り替えて得た収益合計 18,000 ペソはヘルスポスト運営費に充当。

写真：成果発表  
の組合員と帳簿



### <耕運機貸し出し事業・バロンギス村>

水田 25ha を耕して得た収益の 8,000 ペソは村のヘルスポスト用に、4,500 ペソは PIHS 運営に充当。

### <新年度のモロの村の事業>

\*引き続き WE21 ジャパンみどりのご支援で、バロンギスは耕運機連結のカート購入で収益の増加を図り、ティナガカンとともにヘルス組合員の子ども・青年対象奨学金事業を実施します。

\*トゥヤン他計 3 村で、健康保険加入推進及び研修事業を今井記念海外協力基金助成で実施予定です。

— ジョジョのクリニック報告 1-2 月分 —  
(医療支援会員 47 名月 5 万円による支援の内容)

- \*主な疾患:インフルエンザ 30 名。はしか 2 名他。
- \*入院事例:1/15-18 カレッジ奨学生バネッサ、カリウム血症を伴うインフルエンザで、2/23-25 同じくカルメラがインフルエンザと胃腸炎で入院。
- \*巡回診療:1/22 ティボリ町タプロ地区(一般診療 210 名・歯科 32 名) 2/22 ティボリ町スフォ地区(一般診療 169 名・歯科 30 名)
- \*グリーンカード料徴収計 1,380 ペソ。納入率を上げるため各村で教師を中心にキャンペーン中です。

「水」だけが足りない村ラムブソンに  
ラムポンプ方式で水道を!

校舎建設、農業組合育成など各種事業を支援し、すぐれた指導者であるマリオ先生のもとと経済的自立に最も近い村と期待した山頂の村ラムブソン。ただ一つ欠けていたのが「水」でした。

この 3 月、集落より低い地点の湧水を高台の集落まで水圧により揚水するラムポンプ方式での水道建設が始まりました。工事自体は簡単で、1 か月もたたないうちに試験通水が始まりました。しかし水量は少なく乾季には断水の恐れがあり、予備水源の確保が必要です。松尾基金によるこの支援事業、住民のためにも朗報が待たれます。

ラムポンプ:高低差を利用した水圧により、高地へ水を押し上げる方式。フィリピン発の AIDFI 社はその活動を認められ、2010 年イギリス BBC より授賞されました。

森林農業/アグロフォレストリー報告

### <25 世帯から 32 世帯に増えた緑の募金事業>

前号で 25 世帯と報告したタラヒク村の事業参加者は、農地の一部を借金の抵当に取られている住民を加えて 32 名になりました。予算の制約から植えるパラゴムノキ苗木は増やせないで、一部世帯は 0.5ha と植栽面積は半分になります。対象 32 世帯はすでに苗木の移植をすませてピーナッツやユーンの間作をしながら苗木の手入れに当たっています。(緑の募金公募事業)

### <タグマ山系森林再生事業・3年継続事業>

干ばつに苦しんだ昨年から一転、長引く雨にバガカイ村とラワン村の住民は困惑しています。道路が泥で覆われ、パラゴムノキの苗も在来種の苗も運ぶことができないのです。苗床は 2 月に完成しました。先住民は約束しても転居してしまうことがあるため、受益者の最終選抜は実際に苗を渡したときになります。(三井物産環境基金助成)



受益者とともに土地の調査を行う  
(2010/10)